

県民に信頼され、心あたたまる病院をめざします

福井県立病院広報誌 コンパス

Compass



49号
2018 October

救命救急センター長ごあいさつ

当院の救命救急センターは北米型ERとして昭和58年に開設以来35年間24時間対応の「ER:決して断らない救急」として診療を行ってきました。平成28年からは、ER医がICUにおける集中治療も担当する体制を採用し、ERでの初療からICUにおける集中治療まで切れ目のない全身管理と治療が可能となりました。

全ての来院患者を受け入れ診察と治療を行い、後方の専門科へ切れ目のない連携を行う当院ER体制は、研修医の修練の場としても理想的で、毎年多くの初期研修医の応募の要因ともなっています。当センターは日夜多くの若手医師が集い、そこに院内のたくさんの上級医・専門医が参加し、看護師から事務にいたるまで非常に活気のある当院の中心的な職場のひとつとなっています。

これからもこうした職場環境を大切に、さらに研鑽を重ね、福井県の高度急性期をささえる救命救急センターを目指していきたいと考えております。今後とも、ご支援、ご指導を宜しくお願いいたします。



救命救急センター長
石田 浩 (いしだ ひろし)

■専門分野
救急医療/プレホスピタルケア/麻酔/集中治療
■所属学会
日本麻酔科学会専門医
日本救急医学会専門医

主なイベント・セミナーのご案内

2018.10
|
2019.01

- 10月 乳がん啓発期間 10月18日(木)がんミニ講座&相談会
- 10月14日(日)休日レディースがん検診(乳がん) ※要ご予約
- 10月17日(水)歯科講演会 対象/医療職
- 10月19日(金)地域医療・看護・介護交流会 対象/医療職
- 10月23日(火)福井県立病院祭 入場無料 150席
- 10月24日(水)認定看護師研修会(精神科) 対象/看護師等
- 10月31日(水)出前講座「がん化学療法研修会」@坂井地区 医師会館
- 11月22日(木)認定看護師研修会(乳がん看護) 対象/看護師等
- 11月22日(木)地域医療連携医講演会・交流会 対象/地域医療連携医
- 11月下旬 医療安全推進月間行事
- 12月19日(水)認定看護師研修会(がん性疼痛看護) 対象/看護師等
- 12月下旬 陽子線センター市民公開講座 @フェニックスプラザ 対象/一般
- 1月10日(木)認定看護師研修会(透析看護) 対象/看護師等
- 1月19日(土)がん市民公開講座 @フェニックスプラザ 対象/一般

※ボランティアコンサートの予定は4ページをご覧ください。

▶お問い合わせ先

☎0776-54-5151(代表) <http://fph.pref.fukui.lg.jp>

Index

- P2~ 特集「糖尿病地域連携でつながる医療」
- P4 ドクターにききましたっ!
神経内科から脳神経内科へ / 病院NEWS
- P5 県立病院がん医療
CareからCureへ 進行肺がんも治療を目指す時代に
- P6~ 地域医療連携通信 / 講演会・交流会のご案内
- 裏表紙 教えて看護師さん
「ストレスとの上手なつき合い方」ちょこっと解説

Compass

この広報誌が「皆様と当院の輪(和)を描くものとなり、また皆様にとって有用な情報を提供することで、「今後の道しるべ」となれるよう思いを込めて「コンパス」と名付けました。



糖尿病地域連携でつながる医療



Data File

	外来糖尿病患者数	入院糖尿病患者 (他科入院も含む)	糖尿病教育入院	糖尿病透析予防指導
平成 28 年	1436 人	375 人	62 人	75 件
平成 29 年	1105 人	420 人	59 人	78 件

- ★外来糖尿病患者減少は地域連携の効果と思います。
- ★当科の特徴として、他科入院患者の糖尿病管理が多いです。
- ★糖尿病透析予防指導件数が増加しています。

糖尿病はほとんど自覚症状がありませんが、血糖値が高い状態を放置すると様々な合併症が起こりやすくなります。一方、なるべく早く治療を開始し、良好な血糖を維持することで合併症の発症や進行を抑えることができます。

福井県で継続的に糖尿病を治療している方は2万1千人と推計されています。糖尿病の特徴として、患者さんの数が多いこと、病状が多様であること、経過が長いこと、関連する診療科が多いことがあります。そのため、一つの医療機関で対応するには限界があります。

そこで糖尿病治療では、かかりつけ医だけでなく、病院やかかりつけ眼科医、かかりつけ歯科医との連携がとても大切になります。さらに看護師、薬剤師、栄養士など多職種によるチーム医療も重要です。

患者さん中心に地域のかかりつけ医・病院・眼科・歯科が連携して情報を共有することで、地域全体で糖尿病患者さんを支援し、質の高い糖尿病診療を行う仕組みを、「糖尿病地域連携」といいます。

当科では、普段の診療は地域のかかりつけ医が行い、定期的に当科の診療を受ける連携方法を目指しており、「循環型」または「二人主治医制」の地域連携と呼ばれます。患者さんは、地域のかかりつけ医と当科の2人の主治医をもつこととなります。

循環型糖尿病地域連携のよい点は、①かかりつけ医による親密な日常診療を受けながら、当院の設備を利用して定期的に合併症の早期発見ができる、②糖尿病が悪化した時や合併症を発症した時にすみやかに連携をとれ、対応できる、③必要があればいつでも当院の専門スタッフによる指導を



内分泌・代謝内科医長

勝田 裕子 (かつだ ゆうこ)

■専門分野

糖尿病／内分泌疾患／高脂血症

■所属学会

日本内科学会総合内科専門医
日本糖尿病学会専門医・指導医

■ひとこと

大学時代はテニスをして、夏になると真っ黒に日焼けをしていましたが、医師になってからはスポーツからすっかり遠ざかっています。機会があれば運動しようと思ひ、昨年は糖尿病協会主催のウォークラリーに参加しました。オリエンテーリングをしながら患者さんと会話ができ、とても楽しかったです。今年も参加し、少しでも体を動かそうと思っています。

受けられる点です。現時点では、糖尿病教育入院後の方、病状が安定した方に対して、積極的に地域連携を勧めたいです。教育入院は、1〜2週間の入院であり、治療法の変更などで退院後の不安を感じる方も少なくありません。そのため、数ヶ月〜1年ごとに当科を受診いただき、栄養指導、療養相談を行います。また長期的には合併症の評価、治療法の見直しも行います。糖尿病認定看護師、糖尿病療養指導士による療養相談では、インスリン手技確認、指導、日常生活に関する相談、フットケアなどを行っています。当院に患者さんの主治医や療養に精通したスタッフがいることは、患者さんにとっても安心感があり、治療継続に有効と思われます。当院では糖尿病重症化予防にも力を入れていきます。特に腎症進展予防のため、糖尿病透析予防指導を行っています。1回の受診で、医師、看護師、



糖尿病連携手帳、糖尿病眼手帳

栄養士の指導を受けるもので、地域連携の一つのツールとなっています。地域連携の際は、糖尿病連携手帳、糖尿病眼手帳を利用します。糖尿病連携手帳は、患者さん本人と、関係する医療機関とが情報を共有することができ、糖尿病地域連携をスムーズに行うための大切な手帳です。今後は糖尿病連携手帳を通じて、糖尿病地域連携を進め、地域全体で患者さんをサポートしていきたいと思っています。

糖尿病教室のご案内

平成30年度

日時 / 第1週から4週水曜日 14時30分より(約1時間)

場所 / 福井県立病院 中央医療センター 3階多目的室①

スケジュール

第1週から4週で1クールとなりますが、1回だけの参加も可能です。また、ご家族の同席も可能です。(ご家族のみは不可)

第1週目	糖尿病とは (医師) 糖尿病の食事療法 (管理栄養士)
第2週目	糖尿病と治療 (医師) 糖尿病と検査 (検査技師)※ 糖尿病と薬 (薬剤師)※
第3週目	糖尿病の合併症 (医師) 糖尿病の食事療法 (管理栄養士)
第4週目	日常生活のケア (看護師) 糖尿病と運動 (理学療法士)

※平成30年度から、新たに検査技師、薬剤師の話が加わりました。



お問い合わせ先

福井県立病院 内分泌・代謝内科外来

TEL 0776-54-5151(代) (内線2110)

神経内科から脳神経内科へ

本年8月1日、当院神経内科は脳神経内科へ改名しました。

標榜診療科名変更は日本神経学会による決定事項です。現在、日本中の神経内科が脳神経内科へ改名しつつあります。

標榜診療科名変更の理由は、神経内科の診療内容をよりよく一般の方々に理解していただくためと、学会から説明されています。

いまだに心療内科や精神科と混同されることがある一方、脳卒中や認知症などのコモディーズを専門的に診療する科であることが広く知られていない状況が続いているとの認識が基礎にあります。

改名することにより、脳・神経の疾患を内科的専門知識と技術をもって診療する診療科であることがわかりやすくなり、神経内科の専門診療を必要とされる患者さんの大きな利益になると期待されています。

1975年に神経内科標榜が許可され、40年以上慣れ親しんだ科名の変更です。個人的には寂しい気もしますが、脳神経内科の名前が存在感を示せるよう、科内皆で努力してゆきます。



脳神経内科主任医長
濱田 敏夫 (はまだ としお)

■専門分野
臨床神経学一般

■所属学会
日本神経学会専門医
日本内科学会専門医

■ひとこと
科の名前も変わって、いつのまにか時代が変わったような気分です。これからも脳神経内科診療を通じて福井の皆さんに貢献できるように、がんばってゆきます。

NEWS

最新情報

がん征圧月間でパネル展やミニ講座などを開催

ミニ講座などを開催

9月は、がんとその予防についての正しい知識の徹底と早期発見・早期治療の普及に全国の組織をあげて取り組むがん征圧月間となっています。当院では、1階エントランスホールにおいてパネル展示「日本人のためのがん予防」を1週間開催し、期間中の午前中はがん相談も実施しました。また、「ミニ講座」心とからだを癒すストレス緩和「ヨガ」、「肺がん治療最前線」、「がんになっても仕事をやめないで」も併せて開催し、たくさんの方々の来院者の方々に参加していただきました。県民の皆さんにがんの予防について考えていただく一助となっていくことを期待して取り組みました。

前立腺がんの陽子線治療期間を8週間から6週間に短縮

8週間から6週間に短縮

福井県立病院陽子線がん治療センターでは、今年7月から、前立腺がんの陽子線治療をこれまでの8週間の治療に加え、1回に照射する陽子線の線量を増やすことによって治療期間を6週間に短縮した治療を開始しました。治療期間の短縮は、患者さんの通院に係る負担軽減につながることを期待されます。また当センターでは、前立腺や周囲の臓器の位置を毎回CTで確認してがん病巣に集中して照射する「CT位置決め法」を用いることで、1回線量を増やしてもこれまでと同じ治療効果で副作用を抑えて治療することが可能です。

ボランティアコンサートに感謝

福井県立病院では、入院患者さんや御来院の方々に憩いのひとときを過ごしていただくために、ボランティアでのコンサートを開催しています。平成30年度は、4月からの半年間で16回開催することができました。中には繰り返し演奏してくださる方も多くいらっしゃいます。ボランティアで演奏してくださった多くの皆様に心から感謝いたします。開催が決まっている今後のコンサートの予定を掲載いたしました。皆様お気軽にお立ち寄りください。



8月24日(金)ジュニア・アンサンブルコンサート

ボランティアコンサート開催予定

於:1階エントランスホール

～2018～		
10/10(水)13:30～	水城ゆう	ピアノコンサート
10/18(木)13:30～	DUO詩音	アルトサクソとピアノのコンサート
10/30(火)13:30～	HIROKO	ギター弾き語り
11/15(木)13:30～	DUO詩音	アルトサクソとピアノのコンサート
12/ 6(木)13:30～	えがりてコーラス	
12/12(水)13:30～	ゆかいなXmas音楽会2018	
12/18(火)13:30～	HIROKO	ギター弾き語り
12/19(水)12:30～	仁愛高等学校	コーラス部コンサート
12/20(木)13:30～	DUO詩音	アルトサクソとピアノのコンサート
12/27(木)13:30～	えなこのすず	歌とピアノのコンサート
～2019～		
1/17(木)13:30～	DUO詩音	アルトサクソとピアノのコンサート
2/21(木)13:30～	DUO詩音	アルトサクソとピアノのコンサート
3/28(木)13:30～	DUO詩音	アルトサクソとピアノのコンサート



呼吸器内科主任医長
小嶋 徹 (こじまとおる)

■専門分野
呼吸器疾患全般／感染症全般

■所属学会
日本内科学会総合内科専門医 (内科専門医)
日本呼吸器学会指導医
日本呼吸器内視鏡学会指導医
日本感染症学会指導医・ICDがん治療認定医
日本結核病学会認定医

■ひとこと
大野市出身・自治医大卒です。卒後、嶺南の小規模病院や池田町の診療所勤務経験から、患者様を紹介する側の気持ちもよくわかっていづつあります。気持ちよく紹介・逆紹介していただけるよう科一丸となって診療にあたります。

日本のがん死亡原因トップである肺がんの治療が今、大きく変わってきています。20年前には進行肺がんは抗癌剤治療を行っても平均8ヶ月の予命であり、文字通り不治の病でした。しかし、2002年分子標的薬イレッサ®の登場から飛躍的に予後が延長し、この20年間で8ヶ月から30ヶ月にまで延びています。(図1)

2015年には、オプジーボ®に代表される免疫細胞のブレーキを解除する『免疫チェックポイント阻害薬』の登場によって、がんの進行を抑えるのみならず、治癒(Cure)の可能性もみえてきております。(図2)



ミニ講座：肺がん治療最前線

『免疫チェックポイント阻害薬』を上乗せする治験にも参加中です。(図3)

当科では、新規肺がん患者様の2/3が連携医・紹介医からのご紹介に頼っており、これからの益々のご協力が必要です。(図4) このように当院の肺がん治療は放射線・陽子線だけでなく、薬物治療も最新の治療を行っており安心して、ご紹介ください。

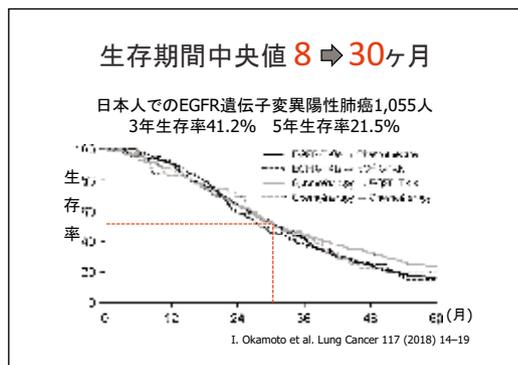


図1 この20年間の肺がん治療の予後延長

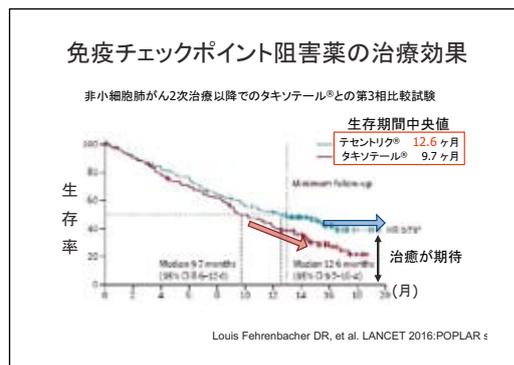


図2 免疫チェックポイント阻害薬の治療効果



図3 治験について

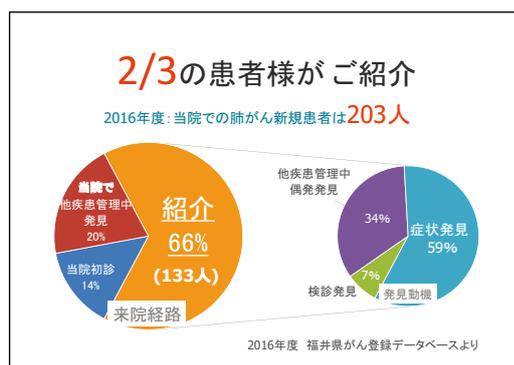


図4 2016年度の当院での肺がん新規患者様の来院経路の内訳

CareからCureへ 進行肺がんも治癒を目指す時代に

齊木内科循環器科医院

院長 ^{さいき} 齋木 ^{しげき} 茂樹 先生
^{おおえ} 大江 ^{みちこ} 迪子 先生



新しくなりました

当院では昭和56年の開業より、循環器をはじめとした内科疾患全般の診療だけでなく、健診、がん検診、往診、訪問診療、予防接種なども手広く行っており、かかりつけ医として地域の皆様の健康維持に努めて参りました。

今年度より消化器疾患を専門とする大江医師が勤務することとなりました。それに伴い、2月の大雪を乗り越えようやく6月に完成した新医院で2診体制を開始しております。これまで診察室にご案内するまでお待たせしてしまい、大変ご迷惑をおかけすることもありましたが新医院では多少改善しておりますのでお気軽にご来院ください。また、福井県立病院の皆様方にも今後変わらぬご指導・ご鞭撻の程よろしくお願いたします。



住所：福井市城東 2 丁目 8-11
 TEL：0776（21）5000
 診療科：内科、循環器科、胃腸科、呼吸器科
 診療時間：8:30～12:30/14:00～18:00
 木 8:30～13:00
 土 8:30～12:30/14:00～17:30
 休診日：木曜午後、日曜、祝日

坪川内科循環器科医院

院長 ^{つぼかわ} 坪川 ^{としなり} 俊成 先生



患者様に寄り添う医療を心がけています

開業し約42年間、地域の皆様に支えられ医療を行ってまいりました。昨年末より私が父より医業継承しております。

当院は糖尿病・高血圧などの生活習慣の予防・検査・治療を含め全身管理を行っています。患者様の要望に応じるため呼吸器・消化器疾患・認知症など幅広い病気の診療にも携わらせて頂いております。必要な方には福井県立病院などの提携病院と速やかに連携し、最適な医療を受けて頂けるように心がけております。なお、適宜往診にも応じておりますのでご連絡下さい。

患者様と信頼関係を築き身近な「かかりつけ医」として、地域の方々が健やかに暮らしていただくためのお手伝いのできたらと考えておりますので、どんなことでもご相談下さい。



住所：福井市若杉浜 1 丁目 605
 TEL：0776（35）6100
 診療科：内科、循環器内科、呼吸器内科、
 消化器内科、糖尿病内科
 診療時間：9:00～12:00/14:00～18:00
 土 9:00～12:00/14:00～15:00
 休診日：水曜午後、日曜、祝日
 URL：<http://tsubokawa-clinic.com/hc/>

大森歯科医院

院長 **大森 正男** 先生



連携医療で安全な診療を

内科と歯科の連携医療では病院を中心に合併症軽減のために行う口腔ケアや歯科治療が知られていますが、地域でも高齢化社会の進展や入院医療から地域医療への早期移行などで内科に通院しながら歯科治療を受ける方が多くなり連携医療がますます重要になってきています。

7年間の県立病院歯科・口腔外科勤務の後、開院してから35年が経ちますが、当院でも歯科治療に影響のある病気で通院中の方は主治医の先生に連携をお願いして投薬内容や検査データとして全身状態などを教えて頂きながら安全な診療に努めています。

今後も、口からはじめる健康づくりを診療理念に皆様の健康のために少しでも貢献できればと考えています。



住所：福井市文京4丁目9-1
TEL：0776(27)7171
診療科：歯科、歯科口腔外科
診療時間：9:00～12:30/14:00～18:00
休診日：木曜午後、日曜、祝日

講演会・交流会のご案内

地域医療 連携医交流会

日時 **11月22日(木)** 18:30～21:00

場所 ホテルフジタ福井 3階 天山の間

内容 講演会 18:30～19:20

交流会 19:30～21:00

※詳細は後日改めてご連絡させていただきます。

歯科講演会

日時 **10月17日(水)** 19:00～20:00

場所 県立病院 3階講堂

演題 病院歯科口腔外科の日常から'18秋

—ビスホスホネート製剤を使用されている患者が来られたら—
—周術期の口腔機能管理の現状とこれから—

地域医療・ 看護・介護 連携交流会

日時 **10月19日(金)** 18:00～19:00

場所 県立病院 3階講堂

演題 精神科救急合併症病棟から

当院の訪問看護を通して地域定着するまで

—自宅で倒れ救急搬送された統合失調症の患者の事例を通して—

出前講座

日時 **10月31日(水)** 19:30～20:30

場所 坂井地区医師会館

演題 がん化学療法中の患者が不調を訴えたら、
どうしますか？

—免疫チェックポイント阻害剤 従来の薬剤との違い—



皆様のご参加を
心よりお待ちしております。

教えて 看護師さん vol.2



精神看護専門看護師
こころの医療センター
やまぐち たつ や
山口 達也

「ストレスとの上手なつき合い方」ちょっと解説

幸せな人ほど

ストレスが多い？

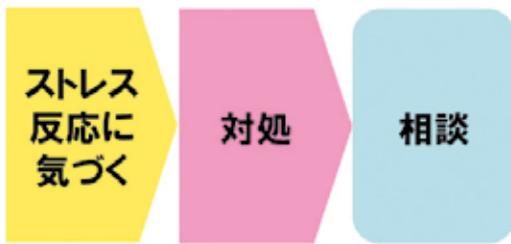
ストレスや精神的な疲労が蔓延している今日、ストレスから体調を崩したり、うつ病などの精神疾患にかかったりする人が年々増加しています。WHOの統計によると、一生涯のうち4人に1人が何らかの精神疾患にかかるとされています。

しかし、「ストレスパラドックス」という言葉があるように、ストレスは悩みとも関連するだけでなく、幸福感とも関連しているのです。つまり、適度にストレスを感じている人ほど、幸せを感じているということも事実のようです。このことから、ストレスとは上手につき合うことが大切だと言えそうです。

ストレスと上手につき合うための「セルフケア」とは？

セルフケアとは「自分のこころの健康を自分で守ること」であり、「ストレス反応に気づく」↓「対処する」↓「相談する」の3つのプロセスから成っています。

セルフケアの流れ



ストレス反応には、肩こりや腰痛、眼精疲労など「からだ」の反応、イライラや不安、不眠など「こころ」の反応、引きこもりや暴飲暴食など「行動」の反応の3つの反応があります。これらの反応に気づいたらすぐに対処をしましょう。自分のストレス反応の傾向について知ること、早めの対処が可能となります。あなたはストレスがかかった時、「からだ」「こころ」「行動」のどこに反応が出やすいですか？



対処法は人に勧められたものではなく、「これをすれば自分には気晴らしになる」という自分の感覚を大切にしましょう。この機会に、あなたにとっての対処法、即ち「ストレス解消法」をできるだけたくさん書き出して下さい。ただし、お酒

は一般的に徐々に量が増え、心身の健康を害する可能性があるため適量にとどめておきましょう。ちなみに、厚生省の指針による1日のアルコール摂取量の目安は、**純アルコール量で約20g程度**(ビールなら中びん1本、日本酒なら1合、ウイスキーならダブル1杯、缶チューハイなら1.5缶程度)です。自分で対処が難しい場合には、ストレスに圧倒されないようにSOSを出すことも重要です。ひとりでは抱え込まずに安心して話せる人に相談しましょう。

あなたの ストレス解消法

をできるだけたくさん書いて下さい。

地域医療連携推進室
TEL (0776)57-2900
FAX (0776)57-2901

救命救急センター
TEL (0776)57-2990 FAX(0776)57-2991

電話対応 月～金/8:30～18:00 土(紹介予約受付)/8:30～12:30
祝日および年末年始(12/29～1/3)を除く



HP <http://fph.pref.fukui.lg.jp/>

スマートフォンからは
こちら→



発行

福井県立病院 情報発信力強化委員会

〒910-8526 福井市四ツ井2丁目8-1 TEL (0776)54-5151(代) FAX(0776)57-2945